

## 大阪 複数で在庫余力残り模様眺めの展開

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は模様眺めのまま月後半入り。市中からの出荷分散に伴って、電炉入荷にバラ付きが残りながらも、電炉筋によってはいまだ在庫余力を抱えることで、様子見姿勢を強めたままだ。同地区電炉のH2実勢値は5万500～5万1000円、新断バラ同5万2000円～5万2500円、鋼ダライ粉バラ同4万4500～4万6000円見当で推移している。

今月前半にかけては一部による上旬の裏値対応、さらには湾岸優位な展開にあったことが、電炉入荷にバラ付きをもたらせており、日量で見れば、計画を確保できているところは限られたようだ。湾岸筋による電炉実勢と同等もしくは上回る集荷がまだ残る展開にあることで、市中からの出荷は二極化している。市中

発生も引き続き停滞感を強めていることで、電炉入荷が後半にかけても継続的に上向いてくるかは見通しづらく、「東鉄に先行して引き合いが緩まるような動きはなさそう」(ヤード業者筋)との見方は根強いようだ。

一方、関東テンダーの落札結果が地区相場だけでなく、東京製鉄の製鋼4拠点を下回った。トルコ向け輸出指標価格も下げ向かっており、海外市場の弱さが目立ち始めている。また、電炉筋も様子見姿勢を維持しながらも、在庫余力を抱えた状態には変わらない。これ以外にも、関東テンダーや海外市場を踏まえ、価格対応を図ってまでの入荷促進には消極的な意向を見せており、「方向性が見えにくく、東鉄の動向が反映されやすくなるのでは」(商社)と見る向きが多い。

### 関西電炉 10月購入量は9月比6.7%増の43万ト

本紙推定による大阪と姫路合わせた関西地区電炉の今10月鉄スクラップ購入予定量(クボタ、栗本鐵工所含む)は9月実績に比べて6.7%(2万7000ト)増の43万200トとなる見通しだ。

内訳は大阪地区の10月購入量が9月比8.8%(2万1000ト)増の26万200トと6月(26万6600ト)以来の26万ト台が見込まれている。電炉間での増減が生じ、一般的に在庫レベルも高い状況にあるものの、生産量の増加に合わせて、購入増を予定しているところが多いようだ。姫路地区も同比3.7%(6,000ト)増の17万トと9月に比べて増加するものの、生産量が低い水準とあって、調達意欲が低下したままだ。

10月の関西地区における粗鋼生産予定量は9月比11.9%(4万7300ト)増の44万5700トとなる見込みだ。

内訳は大阪地区が9月比22.0%(4万8300ト)増の2万7700トが計画されている。元々、9月の当初計画は24万2400トが予定されつつも、突発的な設備トラブル

の問題などによって、下方修正を余儀なくされ、結果的に21万5000トにとどまり、8月に続く21万ト台の低操業に見舞われた。今月は挽回生産をはじめ、操業日数の観点からも大勢が生産量を引き上げているが、製品面においての秋需は起きてこない点で、計画通りの入荷に至るかは不明な部分が多い。

一方、姫路地区の10月生産は9月比0.6%(1,000ト)減の17万8000トと今年で最も低い水準となる。大阪同様に、9月が生産の下方修正もあり、20年12月以来の18万トを割り込む結果となった。10月も9月末からの炉休が今月に跨って行われたほか、下旬には2社が定期炉休を予定していることが、生産量を下振れさせており、2ヶ月連続の17万ト台が見込まれている。

月初在庫は大阪地区が9月比11.6%(1万5700ト)増の15万1600トと越年在庫の手当てを進めてきた今年1月以来の高水準なものとなっている。姫路地区も同比2.8%(2,000ト)増の10万9000トと高いレベルを維持している。

## ワンライブ、ホームページをリニューアル

(兵庫) 金属リサイクルやアプリの開発などを手掛けるワンライブ(本社=兵庫県尼崎市、百井一貴社長)は9月1日、ホームページを全面的にリニューアルした。

新しいホームページでは企業理念を大きく掲載。トップ画面を下にスクロールすると、事業内容を見ることができ、「金属スクラップ買取」はレアメタル・レアアースのリサイクル、「汚泥・スラッジ買取」はレアメタルを含有している汚泥・スラッジのリサイクルについて解説している。両項目には様々な現物の写真を掲載し、初心者でもイメージしやすいように構成している。「デジタルコンテンツの配信」では、金属リサイクル業界専門のスマホアプリ「メタライブ」の特長などを掲載。またYouTubeを使った解説動画も見ることができ

き、動画内ではイメージキャラクターの「エルワン」が登場し、同アプリについて分かりやすく紹介している。

今回のリニューアルについてメタルDX事業部部長の土肥容高氏は「事業内容をPRするため、ホームページのリニューアルを決めた。情報をオープンにすることはお客様の安心と信頼につながると思うので、今後も情報の発信に努めたい」と話す。



ホームページのトップ画面



スクラップの写真